

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	アニメ等聖地化推進観光拠点整備事業【新規】		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	地域資源（ひと）を最大限に活用し、積極的に魅力を発信していきながら、交流を通じて町のイメージアップに取り組み、若者や外国人等の観光誘客を図る。		
事業の内容	町出身で活躍されている方々のアニメやマンガの舞台モデル地を活用するなど各種事業に取り組む。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	関係者等への情報収集から取り組んでいく。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる
具体的な施策	(2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む
	1 にぎわいを生む観光地づくり
事業名	しま共通地域通貨事業
担当課名	観光商工課
関係課名	
所属長名	安 永 佳 秀
事業の目的	島外からの来島用のプレミアム付地域通貨(H28.10月より電子通貨化)を販売し、地域産業の活性化を図る。長崎県内の複数のしま共通で使えるプレミアム付き地域通貨を発行し、全国からの観光客やビジネス客をしまに誘致し、しまでの消費促進を図り、しまの地域経済を活性化する。また、しまが持つ特色や地域資源を全国に向けたPRすることで、交流人口の増加を通じて、しまの人口減少に歯止めを掛ける。
事業の内容	しま共通地域通貨の販売。 長崎県内離島において、共通で使用できる2割プレミアム付き商品券『しまとく通貨』を発行する。
事業の実績・取組状況	2割プレミアム分に係る参加自治体割による負担額 75,247千円 参考 新上五島町換金実績 4億6,364万5千円 (県全体換金実績 41億9,067万3千円)
成果(できたこと)	プレミアム分(2割)のお得な地域共通通貨により購入者が多く、地域経済活性化の一翼を担った。
課題(できなかったこと)	しまとく通貨を活用し、更なる観光客の誘客活動に取り組んでいく。
担当課評価	B 当初予定の販売数を上回り、追加発行を行った。地域経済に及ぼす効果は大きかった。
課題の解決策(目標(KPI)向上に向けた今後の取組方法)	平成28年1月でしまとく通貨の発売は終了し、平成28年10月(一般販売は11月)から電子通貨として販売を開始する。来島者の利便性の向上及び取り扱い事務作業の簡素化ができるシステム構築する。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	五島の日登録を契機とする交流推進事業		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳哲也
関係課名			
事業の目的	合併10周年を記念して5月10日を「五島の日」に制定したことを契機に、町の魅力を広く町内外にPRし、交流人口の拡大を図る。		
事業の内容	「五島の日」を契機とし、町内外に町の魅力を広くPRし、交流人口を拡大するイベントを開催する。		
事業の実績・取組状況	地域情報の発信による交流促進事業 1,692千円 ◆Sunset Live in KAMIGOTO（フラダンスやバンド演奏、花火打上など）開催 来場者：550名 出演者：112名（内島外10名） ◆ざあーまに撮って上五島フォトコンテスト（H27.8.1～H28.2.29）開催 応募数：157点（町内98点・町外59点） Facebook 延べ20,000人		
成果（できたこと）	島内でイベントを開催したことにより、来場者からスタッフまで含め、約700名の交流が図られた。また、フォトコンテストにより、ふるさとの魅力を再発見することにつながり、SNSにより全国に島の魅力を発信することができた。		
課題（できなかったこと）	有名アイドルグループのコンサート開催に向け、関係者との調整を行ったが、先方のスケジュールの確保が出来ず、開催できなかった。		
担当課評価	C	イベントの開催により約700名の交流が図られた。また、フォトコンテストの開催に伴うSNSでの情報発信により、約2万人に島の魅力を発信できた。しかしながら、イベントへの島外から誘客が少なかった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	イベント企画段階から住民の代表にも参加いただいて、町をあげての取り組みにする。また、イベント開催日は、島外からの参加も考慮し決定する。		
委員評価	C	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	「四季を味わう上五島」推進事業		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	新上五島町の自然、歴史、文化を活かした観光イベントを実施することで地域に賑わいを生み、かつイベントの魅力を情報発信することによって、交流人口の拡大及び地域の活性化を図る。また、各種媒体とのタイアップや観光キャンペーン等開催を通じた島外への情報発信、旅行会社や学校を訪問する等の誘致活動を実施することにより、観光客の誘客を促進する。		
事業の内容	探訪～四季を味わう上五島実行委員会に対して補助金を交付している。 実行委員会では、四季折々の観光イベント「ほたるのふるさと相河川まつり」「蛤浜で遊ぼデー＆白砂の芸術祭」「上五島教会めぐりウォーク&クルーズ」「チャーチウィークin教会コンサート」「五島列島ノルディックウォーク」の開催や、国内、国外（特に韓国）の旅行会社やメディア等への情報発信を行っている。 また、クルーズ船や外国人観光客の受入体制の強化や、新しい観光素材等への支援を行っている。		
事業の実績・取組状況	探訪～四季を味わう上五島実行委員会に対して、13,033千円を補助。 四季折々の観光イベント開催 旅行会社等への誘致活動 クルーズ客船誘致事業 などを実施		
成果（できたこと）	補助金を交付し各種事業を展開したことで、各観光イベントの集客やそれに伴う情報発信の効果で観光客が増えた。また、クルーズ客船が過去最高の6回の寄港に繋がった。		
課題（できなかったこと）	事業内容がマンネリ化していないか関係者と意見交換が必要である。		
担当課評価	B	四季を通して観光イベントを実施することにより、観光情報発信及び国内外からの観光客誘客活動により交流人口の拡大が図られた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も交流人口の拡大を目指し、関係者と意見交換をしながら、有効な事業に取り組むとともに、新しい観光メニューの開発にも取り組んでいく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	EV&ITS実配備促進協議会補助事業		
担当課名	観光商工課	所属長名	安永佳秀
関係課名			
事業の目的	未来型ドライブ観光システムの構築や実施、EVを核にして情報通信ネットワーク、エネルギーネットワークがつながったEVスマート社会を創造する。		
事業の内容	新上五島町EV&ITS実配備促進協議会にて58台のEV車を所有。町内交通事業者・観光関係事業者に貸与し運用中。また、町内に急速充電器設備8ヶ所(13基)を設置し運用を行う。		
事業の実績・取組状況	EV&ITS実配備促進協議会補助 14,026千円 急速充電器等機器の維持管理及び運用。EV車新電池モニター導入等メーカーとの協議。 頭ヶ島天主堂への観光客増加に伴い実施されているパーク&ライドによる空港駐車場へのEV入り込みに対応するため、急速充電器(1基)を上五島空港に新設。		
成果(できたこと)	EV車58台の運行 急速充電器の運用を行い、EV車への充電環境を維持できた。また、パーク&ライド試行によるEV利用者の不便を解消できた。		
課題(できなかったこと)	電気自動車の電池劣化等で走行距離が低下している。急速充電機器の部品等劣化が生じている。		
担当課評価	B	EV車普及に欠かせない急速充電設備のインフラ整備により、EV車運用の幅が広がった。	
課題の解決策(目標(KPI)向上に向けた今後の取組方法)	・新上五島町EV&ITS実配備促進協議会を中核に、EVについてはメーカーと連携してEV車電池無償交換を実施しEV車の延命を図る。急速充電器はメンテナンス等を実施し維持管理に努める。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	観光物産協会補助事業		
担当課名	観光商工課	所属長名	安永佳秀
関係課名			
事業の目的	本町の観光・物産業者の組織体制の基盤を強化し、本町を訪れる観光客に対して、満足度の高いサービスを提供できるよう、受入体制の整備充実を図る。また、島外からの観光客誘致を進めるとともに、新たな旅行商品の開発にも取り組むなど、観光物産の振興発展に中心的役割の充実を図る。		
事業の内容	観光物産展の参加、島外への情報発信など、誘客活動を精力的に行った。探訪～四季を味わう上五島実行委員会主催のイベント等に事務局として積極的に参加し、町の観光物産振興事業に取り組んだ。また、着地型旅行商品の企画実施をはじめ、「五島神楽」、「漁師の朝飯」、ガイドの会のとりまとめ受付業務などにも取り組んでいる。		
事業の実績・取組状況	観光物産協会補助 16,826千円 ○旅客ターミナル等で観光案内業務や物産販売などを実施（各港及び五島うどんの里等、5ヶ所設置）○個人観光客が参加できる着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語～上五島編～」を企画実施（28名参加）○関係者と連携して、団体観光客向けに「五島神楽」や「漁師の朝飯」による観光客誘客に取り組んだ。（五島神楽 26件／654名。漁師の朝飯 91件／2,816名）		
成果（できたこと）	観光物産振興事業に、積極的に取り組み、交流人口の拡大及び地域経済の活性化に大きく貢献している。		
課題（できなかったこと）	世界遺産登録を控え、観光物産協会の役割は更に大きくなることが予想されるため、組織体制の基盤強化が課題である。		
担当課評価	B	観光物産振興事業に積極的に取り組むことができた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	観光物産振興の発展に中心的役割を果たす観光物産協会と今後も情報共有を行い、連携を図りながら、世界遺産登録を見据えた受入体制の整備に努めていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	1	にぎわいを生む観光地づくり	
事業名	島の食材を活かした料理開発事業【新規】		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	島内の食材を生かした料理メニューの開発・島内飲食店等での提供により、観光客の満足度向上、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を図る。		
事業の内容	有名料理人による実地料理研修会を開催し、島の中で入手がしやすい島の食材を活かしたインパクトのある島らしい料理メニュー（観光客向け及び島民向け）を開発、島内の宿泊施設や飲食店で提供し、観光客の満足度が高められ、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を図るとともに、食材の新たな加工品開発に繋げる。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	平成28年度からパートナーシップ協定事業で、生産者と調理人の交流事業を行うので、その機会を利用して、新たな料理の開発に取り組み、町内飲食店等で提供できるよう進める。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。